学校医会ニュース

楠醫

第558号　令和7年1月1日
発行所　京都市学校医会
京都市中京区間之町通竹屋町下ル
楠町601－1こどもみらい館2階
ＴＥＬ（075）256－0351
ＦＡＸ（075）241－3568
発行人　井本雅美

新年あけましておめでとうございます

会長　井本雅美

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は皆様のご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

新たな年を迎え、今一度、子どもたち一人ひとりの健康と成長を支える責任の重さを再認識すると共に、学校保健に関わる全ての方々が前向きに活動できる環境作りを目指していきたいと思います。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は、7月に札幌市で開催された第75回指定都市学校保健協議会に、11月には宮崎市で開催された第55回全国学校保健・学校医大会に参加し、全国の取組みについて見聞し、学校医が感じている課題や不満を直に耳にすることができました。また、脊柱検査の現状や成長曲線の活用など健診に関わる発表は、今後の活動の参考になるものでした。

京都市教育委員会との懇談会、養護教育研究会との懇談会も対面で開催することができ、有意義な意見交換ができました。今年も教育委員会、養護教諭の皆様のご理解とご協力をいただき、変化が加速する時代の中で、柔軟でありながらも信念を持って活動を続けていきたいと考えております。

令和7年度には、4つの学校の統合があります。北区の柏野小と上京区の翔鸞小が翔鸞小学校に、左京区の市原野小と鞍馬小が市原野小学校に、西京区の竹の里小と西陵中が洛西陵明小中学校に、伏見区の小栗栖宮山小と石田小と小栗栖中が栄桜小中学校になります。児童数の減少は続くと考えられ、学校医の配置についてご協力をお願いすることが今後も出てくることと思います。

最後に、現在決まっている4月までの予定をお知らせします。

- 京都府医師会学校医部会総会
  （2/6　京都府医師会館）
- 第3回「京キッズRUN」大会
  （2/9　たけびしスタジアム京都）
- 第72回近畿医師会連合学校医研究協議会総会
  （2/16　ホテル日航奈良）
- 京都府医師会新任学校医研修会
  （3/4　京都府医師会館）
- 京都市学校医会新任学校医研修会
  （3/13　こどもみらい館）
- 京都市学校医会総会
  （4/19　ウエスティン都ホテル）

本年が、皆様にとって素晴らしい一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

謹賀新年　令和7年　元旦

会長　井本雅美	常任理事　川勝秀一	監事　長村吉朗
副会長　山内英子	〃　中嶋毅	〃　杉本英造
専務理事　安野哲也	〃　西村康孝	議長　林鐘声
常任理事　大久保秀夫	〃　八田佐知子	副議長　井上喜美子
	〃　守上佳樹	

京都府眼科学校医会理事　嶋元孝純　　京都府耳鼻咽喉科専門医会理事　平杉嘉平太

新年の御挨拶

京都市教育長　稲田新吾

新年あけましておめでとうございます。

京都市学校医会の先生方におかれましては、日頃より、本市教育の充実に多大なる御支援と御協力を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、貴会におかれましては、井本雅美先生を会長とする新しい執行体制で順風満帆の運営を行われていることをお喜び申し上げます。また、4年にわたり会長を務められた杉本英造先生には、コロナ禍の難しい局面において、学校医会と教育委員会との橋渡し役として、重要な役割を担っていただきました。その御尽力に深く敬意と感謝の意を表する次第です。

昨年は、令和6年1月に文部科学省より「児童生徒のプライバシーや心情に配慮した健康診断実施のための環境整備の考え方」が新たに示されて以降、初めての健康診断となりました。他都市では、健康診断の実施に混乱が生じたケースも見受けられる中、本市では、全ての学校・幼稚園において、スムーズに健康診断を実施することができました。これも偏に京都市学校医会の先生方のお力添えの賜物であると確信しております。

この間、子どもたちを取り巻く環境は年々複雑になり、新たな感染症や様々なアレルギー疾患、インターネットやスマートフォン、ＳＮＳ等の普及に伴う視力低下、メンタルヘルスに関する問題、肥満の増加をはじめとする健康課題等、複雑・多様化しております。こうした課題解決には、学校はもとより家庭や地域と連携を図りながら、地道に学校保健活動を展開していただかなければならないと考えております。今後とも関係各位の御理解・御協力を、よろしくお願い申し上げます。

教育委員会といたしましては、引き続き井本会長をはじめ、学校医会の先生方との連携をより深め、本市の教育理念である「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」教育のさらなる推進に努めてまいりたいと考えております。

本年は巳年（蛇年）であります。ギリシャ神話において、蛇は再生と治療の象徴とされており、医学の神として知られるアスクレピオスの杖には蛇が巻き付いています。この杖は、現代の医療のシンボルとしても広く認識されております。

学校医会の先生方におかれましては、蛇年という医学や医療に縁のあるこの1年においても、子どもたちの健康の保持増進に向け、今後とも変わらぬ御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げるとともに、京都市学校医会並びに学校医会の皆様にとって、本年がより良い年となるよう心から祈念いたします。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

京都府耳鼻咽喉科専門医会　会長　高北晋一

新年あけましておめでとうございます。学校医会の先生方におかれましては、日頃よりなにかとお世話になりまして、まことにありがとうございます。耳鼻咽喉科学校保健の昨年からの話題としましては、16年ぶりに耳鼻咽喉科学校医配置状況などの全国調査結果が出たということと、ヘッドホン・イヤホン難聴が挙げられると思います。

耳鼻咽喉科学校医配置率の全国平均は 79.8%（京都市を含む京都府 83 %）で、耳鼻咽喉科医による学校健診実施率の全国平均は 88.8 %（京都市を含む京都府 100%）でした。京都ではすべての学校に学校医が配置されているわけではありませんが、健

診率は100％と、学校医が配置されていないところでも学校保健関係者のご尽力で健診がおこなわれていることがわかりました。

耳鼻咽喉科の抱える問題点としては、他科も同じかと考えられますが、耳鼻咽喉科学校医配置の地域格差や多数校の兼務による時間的・体力的負担が挙げられています。しかしこれはなかなか根の深い難題と言えます。

ヘッドホン・イヤホン難聴は、最近になってさらにクローズアップされてきた問題で、児童・生徒に対する啓発活動が検討されています。WHO が定めた安全な音量と聴取時間の上限基準（成人：80dB、40 時間 / 週、小児：75dB、40 時間 / 週）がありますが、耳鼻咽喉科頭頸部外科学会（耳鼻科学会）会員になされたアンケートでは、WHOの基準を知らないと答えたものが 7 割を占め、学校医と学校医以外で差は認められませんでした。さらに、学校医として、ヘッドホン・イヤホン難聴の対応は必要ないと考えているものがおよそ 6 割を占め、耳鼻科学会としては、まず耳鼻科医への啓発からということになりました。その上で、ヘッドホン・イヤホン難聴の問題が世界的に広がっていることより、音楽を聴く際の正しい使用法の周知が重要であり、学校における「ヘッドホン・イヤホン難聴」に関する講話用資料を作成予定で、対象は保護者・教諭等を含め小学校高学年以上を想定しているとのことです。

以上、最近の耳鼻咽喉科学校保健の話題を申し上げました。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

新 年 に 寄 せ て

京都府眼科医会会長　　柏　井　真理子

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は京都市学校医会はじめ皆々様に大変お世話になりして誠にありがとうございました。

京都府眼科学校医会として昨年は大変嬉しい出来事がございました。それは京都市学校医会からの多大なるお力添えで京都府眼科学校医会の新井真理先生が、宮崎県で開催されました令和 6 年度全国学校保健･安全研究大会でめでたく「文部科学大臣表彰」を受賞なさいました。受賞の大きな理由は、新井真理先生が平成 7 年度より現在までおよそ30年の間、京都市色覚相談事業において京都市立学校在籍の色覚異常の特性を持つおよそ1200名もの児童生徒の精査やカウンセリングに身を粉にして尽力されてこられました活動に対してです。子ども達や保護者、学校関係者に色覚について丁寧に説明し、将来たくましくそして自信をもって生活できるよう細やかに尽力をされてきました。眼科医会会員として新井先生のご受賞は大変な喜びであり、またそれと同時にこの事業をしっかりと継続、サポートいただいております京都市教育員会、京都市学校医会の関係者にはこの場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

また京都には「京都ロービジョンネットワーク」があり、眼科医と患者団体、福祉や教育の行政機関がしっかりと連携しロービジョンの方々の対応に取り組んでおります。視覚障害の児童生徒も適切な教育の機会が与えられ、可能な限り特性に寄り添える教育の機会を持っていただけるよう努力しております。多様性が尊重される社会づくりが求められている現在、どのような特性を持っていても誰一人取り残されることなく個々の特性に応じてたくましく幸せに生きて行けるよう、私達大人が協力・連携して取り組んでいきたいと思っております。

本年もどうぞご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

第55回全国学校保健・学校医大会 in 宮崎　記念講演を拝聴して

顧問　　奥　村　正　治

今年の特別公演は、「夢を夢で終わらせない競泳人生」と題して、元オリンピック日本代表コーチ久世由美子氏のお話でした。演者も高校時代・インターハイ、旭化成工業（株）時代・全日本大会、国体などの水泳選手として活躍なさいました。現役引退後、宮崎県延岡市東海中学校のプールに、有志で「東海スイミングクラブ」を創設し、そこに4歳でクラブに入ってきたのが、本日の話題の北京五輪とロンドン五輪の200mバタフライ銅メダリスト・松田丈志氏との20年以上にわたる関わりの話です。

幼稚園時代、小学生低学年時代は水泳選手になれるとは思っていなかった。何故なら、週二回の練習に「空手に行きます」「サッカーに行きます」と言って、水泳の練習に来なかったのです。小学生2年の時、バルセロナ五輪の岩崎恭子の金メダルに、「僕も金メダル取れるかな？」　3年生の時、小学生の水泳大会が沖縄で開催され、「飛行機に乗れる、沖縄に行ってみたい」の思いで、水泳大会に出て、8位を取りました。その時の笑顔をもう一度私が見たい。との思いで、水泳を教え始めました。

最初に徹底して指導したのは、挨拶や返事がしっかり出来る事、故障しない体を作るために、水泳前に、warming upとstretch、練習後のcool downをやりました。小学校時代に基本・基礎を教えたらうまくいくと確信して行いました。松田選手は中学生になり、頭角を現すようになり、全国一位になりました。標準記録を破り、ナショナルチーム入りを果たし、「喜び・楽しさ」を知るようになりました。高校時代には、全国からお誘いがありましたが、「宮崎に残る」と言ってきたので、コーチングは続きました。国内では敵なしともなり、インターナショナルチームの枠に入り、大学はオリンピックに出たいという希望から、中京大学に進みました。高3の時、当時世界チャンピオンの多い、オーストラリアに海外の見学を私ともども、「どのような練習なのか？」を解明したいために、出かけました。オーストラリアの選手と一緒に練習をいたしましたが、全く歯が立ちませんでした。体格も大きく足の長さも長く、松田選手は28.4㎝、オーストラリアの選手は36㎝。足ひれが引っ付いているようでした。

大学に入り、講師のご主人の勧めと言うか、コーチを離れると悔いが残るだろうと指摘され、中京大学にコーチとして丈志の面倒を見ることになり、丈志が日本代表になり、講師も同時に日本代表のコーチとして参画し、オリンピックに3回出場し、金メダルは残念ながら取れ無かったが、銀・銅のメダルを計4個取ることができました。

講演の中で水泳の泳力の指導の話は全くありませんでした。そんな中で唯一、技術までの話題ではありませんが、大学での練習するプールの温水装置が故障し、水温が上がらないプールで、他の選手は冷たすぎると言って練習をしなかった時も、丈志は「冷たくない」と言って練習しました。何故なら、東海スイミングクラブのプールは、農業でよく見かけるビニールハウスがプールの上に乗っかっている状態です。水温上昇までには程遠いプールで練習をしていたからでした。

この様に丈志と一緒の28年間のコーチングでした。

①基礎をおろそかにすれば、一流にはなれない
- 故障しない体を作るために、水泳前に、warming upとstretch、練習後のcool downをやりました

②階段を踏んで徐々にステップアップ
- 一つ一つ階段を上がるようなメニューを組み立てる
- 選手としての完成を急がないこと
- 月間計画と年間計画は別

③折れない魂を作る
- 考える力を持つ選手をめざす
- 心（あきらめない強い意志）
- 技（適応したフォーム）
- 体（肉体強化と体調管理）

『科学での指導も必要だが、心での指導と選手の感覚を大事にした指導を続けたい』
という話でした。